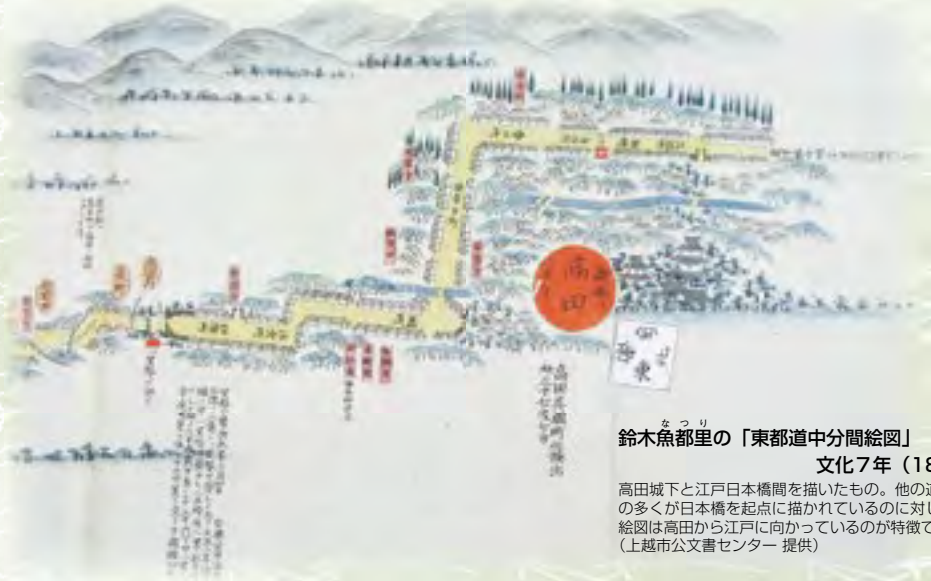
北国街道

江戸幕府は、中山道追分宿から分岐し、高田を経て出雲崎に至る北国街道を五街道に次ぐ重要な脇往還（五街道以外の主要道路）として重要視していました。幕府直轄の佐渡鉱山の金銀を安全に江戸まで輸送するための往還だったからです。松平忠輝は、忠輝の付家老として幕府から派遣されていた大久保長安らとともに北国街道の整備に着手します。
それにより、佐渡の金銀を江戸へ運ぶ重要な街道が確保されたと同時に、誰もが安全に往来出来る交通網が整備され、加賀藩前田家をはじめ、その他北陸や越後の諸大名が参勤交代でこの街道を通行しました。

コラム　旧町名の辻標

北国街道沿いには、高田開府400年をきっかけに歴史的な旧町名と解説文を記した辻標が40本以上設置されました。まち歩きしながら探してみては。

●文化7年（1810）

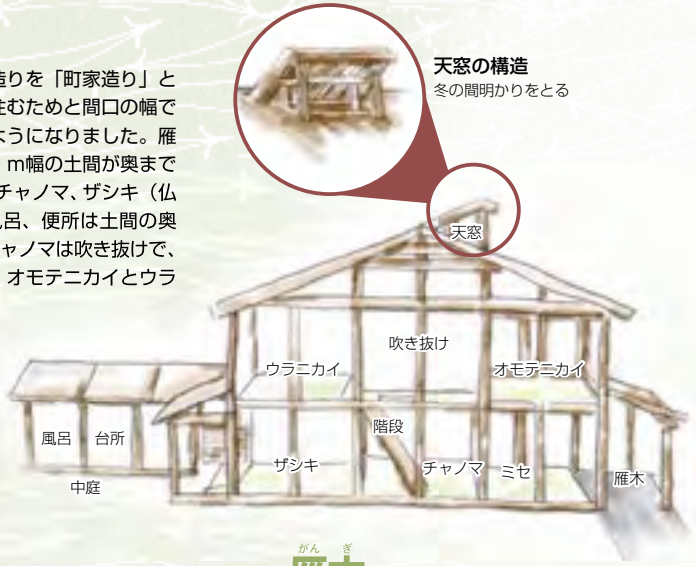


鈴木魚都里の「東都道中分間絵図」
文化7年（1810）
高田城下と江戸日本橋間を描いたもの。他の道中絵図の多くが日本橋を起点に描かれているのに対し、この絵図は高田から江戸に向かっているのが特徴です。
（上越市公文書センター 提供）

●現在

町家

間口が狭く、奥行きの長い家の造りを「町家造り」といい、狭い土地に多くの町民が住むためと間口の幅で税が決まったことから造られるようになりました。雁木から戸を開けて家に入ると約１m幅の土間が奥まで一直線に通り、その片側にミセ、チャノマ、ザシキ（仏間）、中庭、蔵と続き、台所、風呂、便所は土間の奥の中庭に面して並んでいます。チャノマは吹き抜けで、その間に階段と渡り廊下があり、オモテニカイとウラニカイに分けられます。
両隣りの家とは壁一つで接しているため、吹き抜けに天窓が取り付けられ、明かり採りやいろりの煙出しになっています。冬は寒いですが夏の少しひんやりとした空気は独特です。最近では、町家造りの建物をリノベーションしてオフィスや喫茶店、民泊施設など、新しい姿に生まれ変わっている町家もあります。



造り込み式雁木
雁木の通路部分の上に物置や住居スペースがあるもの。比較的古い形態の雁木と考えられ、近年では数が少なくなってきています。

落し式雁木
町家のオモテニカイの採光と通風を確保するため、平屋の雁木を母屋に付けたもの。明治以降に造られました。

雁木

江戸時代、「この下に高田あり」と高札が立てられたほどの豪雪地帯である高田では、冬期間でも人々の往来ができるよう、家の前に張り出した庇である「雁木」が造られました。雁木ができたのは、築城後、城下町が整った松平光長時代以降と考えられています。雁木は、城下町の街道沿いなどの町人町に並び、上越市には現在でも日本一の長さの雁木通りが残っています。
雁木は母屋の一部であり、雁木の下は私有地なので、雁木の庇の高さや雁木の下の舗装も一軒一軒異なります。雁木は厳しい雪国の環境の中で作られた互助の精神の象徴である伝統的な建造物と言えるでしょう。

三味線町家　越後高田　MACHIYA ZANMAI
日本一の総延長の雁木通りが残るまち高田の懐かしく新しい魅力が詰まった雁木通りや町家巡りをしてみませんか。
詳しくはこちら

豪雪の様子

近年では少雪の年もありますが、高田は全国でも有数の豪雪地帯であるため、雁木などの町並みが生まれました。

雁木通りがすっぽりと埋まるほどの豪雪
（昭和36年１月　本町６丁目付近）
（上越市公文書センター 提供）

通りが雪で埋まっても雁木の下はこのとおり
（上越市公文書センター 提供）